

令和3年2月15日

10時26分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 9番

氏名 野藤 薫

答弁を求める者

(○をつける)

☒ 市長

☒ 教育長

監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長

固定資産評価審査委員会委員長

公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 島根県立大学との連携について

(1) 浜田市との共同研究について（成果と活用）

浜田市総合振興計画の前期基本計画、平成26年度から平成33年度（令和3年度）までの大学との共同研究について、目標値24件と記載がありました。

- ① 2020年度の共同研究事業は6件採択されているが、新型コロナの影響で各研究の進展状況はどのようになるのか、ご所見を伺います。
- ② 共同研究の成果について、毎年度成果発表会の開催はあるが、過去の研究成果物（資料等）について、どの様に蓄積されているのか、伺います。
- ③ 共同研究の活用について、単年度や複数年度、様々な課題・テーマで研究されているが、基本計画にある「より実効性の高い行政施策の展開を目指す」事に活用されているのか？政策効果等を伺います。
- ④ 藤原ゼミの「住宅地図から見る商店街の変遷について」で数年前に各商店街の高齢役員に聞き取りをされていると聞きました。
昭和30年代から現在まで時系列での店舗数と業種・業態の変化は興味深いもので、最後の部分には結論めいて「中心市街地をどのように用途変更し、再編するか行政の構想力が試されている」と結んであります。
今後のまちづくりへの課題提起だと思いますが、ご所見を伺います。
- ⑤ 藤原ゼミのフィールドワークでは、紺屋町の空き店舗を使用されていた

が、角地に建つ元宮脇洋服店の建物について、趣のあるたたずまいで2階は空いているようだ。

民間の所有であるが、学生が集う場所やフリースペース等、町おこしの拠点になると言われた。ご所見を伺う。

(2) 学部増設後の協力支援について

- ① 令和3年度から総合政策学部を国際関係と地域政策の2学部5コースに改め、入試も5コースで行われた。結果は志願者数の大幅減だという。募集定員を下回っている訳では無く、大学側は結果を注視するというが、新年度の学部改編後の浜田市の協力支援も重要と考えるが、ご所見を伺う。

2. 新型コロナ感染症後の地域課題について

- ① 国・県・市による緊急コロナ対策の補助金や支援金により、市内事業者は昨年4月以降、何とか事業が継続されている。

昨年末からの地元産業や団体への浜田市独自支援も好評だ。

しかし今年に入り、市内商店街で事業中止や閉店が増えている。

社会・経済の変化がコロナで加速したと感じている。今後の浜田市の創生計画や定住政策、まちづくりへの早急な対応が必要だ。ご所見を伺う

- ② 感染拡大による多人数の会食の自粛長期化で、特に水産関係の窮状があると聞く。生産者からの声は、漁獲量の増加が見込めない中、コストの増大と魚価の低迷だ。浜田市の基幹産業の漁業者への声に前向きに答える必要が有ると思うが、所見を伺う。

- ③ 観光や旅行への自粛が解除される時期は近いと思うが、日本文化遺産の北前船寄港地の外ノ浦港や石見神楽、ユネスコ無形文化遺産の和紙、そしてそれらを取り巻く石見の歴史、温泉や食、様々なキーワードが有る。

歴史や文化、自然美などをコンテンツにドローン映像などを使い、どんどん情報発信する必要が有ると考えるが、所見を伺う